

飯舘電力株式会社

避難自治体における再エネの取組の課題と展望

飯舘電力株式会社

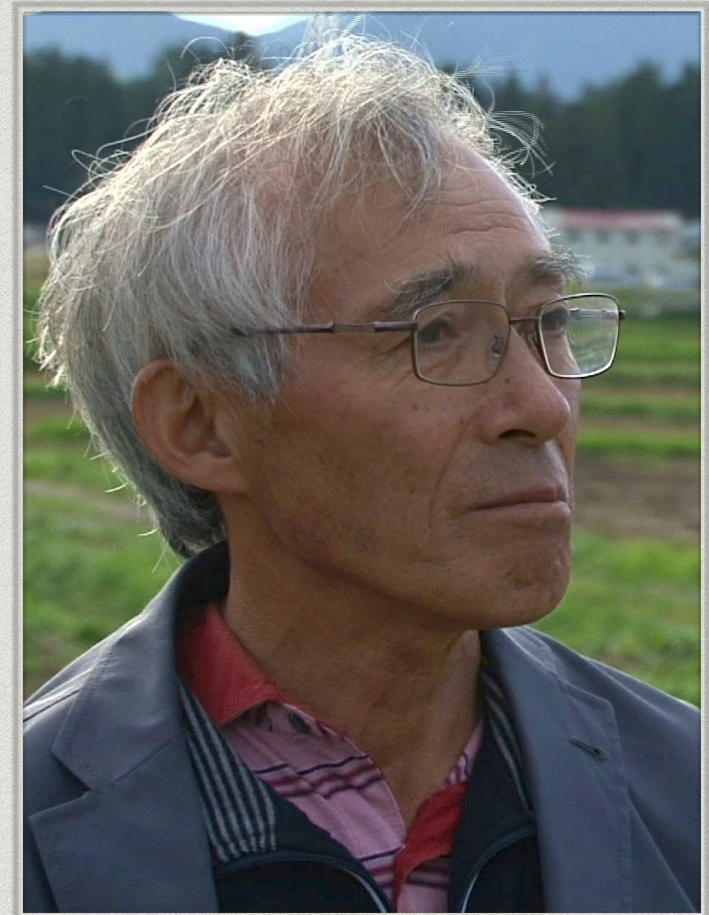
福島事務所 所長 近藤恵

会社概要

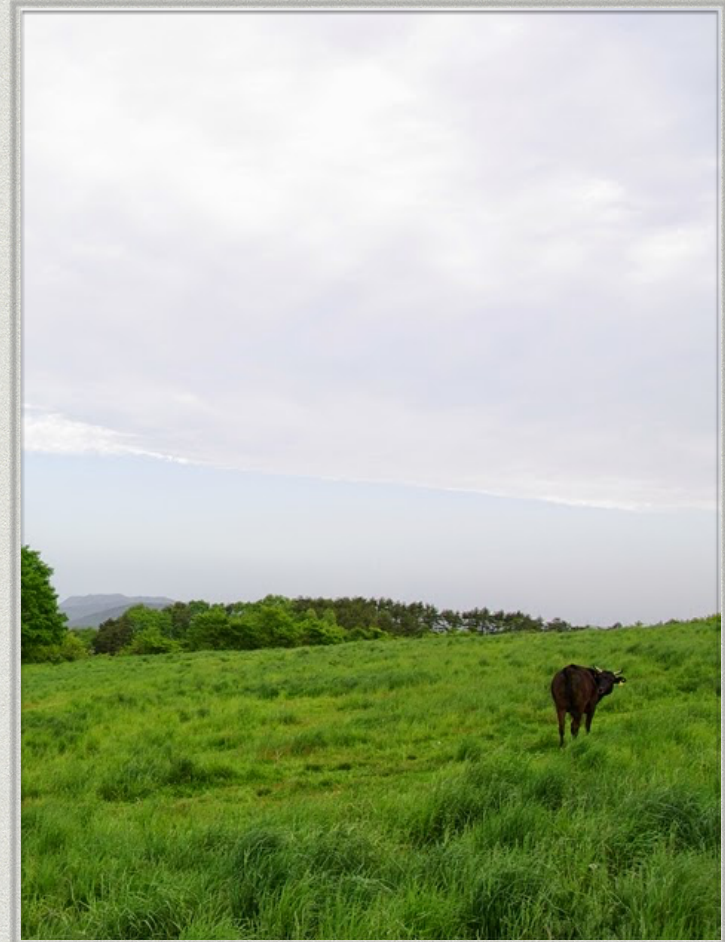
- * 平成26年9月29日発足
- * 村民32名による出資で立ち上がった
- * メガソーラーを計画するも、無制限出力抑制により断念
- * 小規模分散の計画に変更

「一家に一台」

- * 小林稔社長の目指すもの
- * 30頭肉牛農家
- * 10町歩稲作農家
- * 一家に一台
- * 分散型エネルギー



地域資源を生かしたいが



その日まで

- * 「受け継がれる日まで私が
守る」
- * 不安も大きい
- * 自活の模索（政策待ちだけ
では）
- * 支えているのはFITと世界潮
流



許認可

農地法

農業振興地域整備計画

放射性物質汚染対処特措法

景観条例

資金調達

信用金庫・地方銀行の協調融資

ABL（動産・債権譲渡担保融資）

発電シュミレーション

キャッシュフロー計算

再エネ3つの壁

合意形成

賃貸借契約・設定登記

分散型ゆへの住民合意の難しさ

新しいことへの抵抗

課題のいくつか

- * 農地法 → ソーラーシェアリングで突破
- * 除染・作付制限 → 区分地上権で突破
- * 系統連携 → 4月以降に期待するも全体計画が見えない。
- * FIT価格の低下 → 自社施工・共同発注で突破

電力地産

太陽光で脱原発

の村づくりになる」

飯館電力は2014年9月、村民や地元企業が出資して設立。民俗学者の赤坂憲雄さん、環境学者の飯田哲也さんらが役員に名を連ねる。1年前、村役場のそばに大きな発電施設1基を設置し、事業を始めた。今月4基が加わり、村内17基態勢を目指す。電気は東北電力に売り、1基当たり200万円の収入を見込む。

一家に一基

目標は「一家に一つの太陽光発電。そうなりゃ、みんな村に帰るのが楽しみになっぺ」と、小林さん。飯

館村出身で、米を作りなが「牛」ブランドの普及に力を
ら和牛30頭を育て、「飯館 注いできた。



福島原発事故で宮城県蔵王町へ避難。喪失感におそわれたが、「酒」が救ってくれた。11年の秋、福島県喜多方市の「大和川酒造店」で、飯館産米の地酒を復活させる動きが起った。「喜多方で酒米を作ってほしい」と白羽の矢が立ち、「大好きな米作りと酒。二つ返事で引き受けた」という。

真の復興を

さらに転機が訪れる。

13年8月、大和川酒造店

エネルギーの地産地消で復興を目指す小林稔さん（中央）ら飯館電力のメンバー



仲間と共に新しい地平へ、自立型社会を目指して